



2011年10月29日 13:10キックオフ 国立競技場

浦和レッズ 0 1 鹿島アントラーズ (延長)

【入場者数】4万6599人 【得点経過】
 【主審】東城 稔 105分 0-1 (鹿)大迫 勇也
 【副審】大塚 晴弘/相葉 忠臣
 【第4の審判員】木村 博之



2011 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ FINAL

2011 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ FINAL



両クラブカラーで染まった国立競技場をヘリコプターから空撮



厳しい戦いを勝ち抜いて優勝した鹿島は、3大タイトル15冠を達成

オズワルド オリヴェイラ監督(鹿島)

「まず、(鹿島)アントラーズの選手たちにおめでとうと言いたい。二つ目に(浦和)レッズの監督と選手をたたえたい。試合を振り返ると、この決勝にたどり着くまでの道のりは厳しかった。きょうも自分たちが主導権を握りながら、(得点)もののできず苦しい展開となった。自分たちで厳しい状況にしてしまった。ただ、最後に120分の戦いを制することができたチームだということを、(準々決勝からの)3試合で見せることができた。本当に幸せに思っている」



堀 孝史監督(浦和)

「選手と一緒に挑戦するつもりでゲームに臨んだが、アントラーズの方が試合運びは一枚上だと感じた。おめでとうございませうと言いたい。ペトロヴィッチ前監督と選手たちで決勝まで駒を進め、急ぎ、決勝だけ僕が指揮を執ることになったが、ペトロヴィッチ前監督に敬意を表したい。一人退場者が出て難しいゲームになったが、選手たちはよく戦ってくれた。この後もリーグ戦は続くので気持ちを切り替え、次の目標に向けて頑張っていきたい」



大東 和美 Jリーグチェアマン

「両チームともに前半は硬さがあり、慎重に入り過ぎていたが、後半になると動きが出てきて、浦和レッズの原口選手や鹿島アントラーズの野沢選手ら主要選手が活躍し、楽しんでもらえたと思う。どちらが勝ってもおかしくない試合内容だった。多くのファン・サポーターに来場いただき、天気にも恵まれ、国立競技場が満員となり、とても盛り上がる大会になったと思う」



決戦前のひととき



ナビスコキックスバトルのシュートゲーム



スタジアム内で行われた義援金募金活動



フェイスペインティングコーナーも人気だった



勝利ロードの写真の前で記念撮影



来場者全員にヤマザキナビスコ製品をプレゼント



スタジアム内には初の試みとして特設託児所を開設

決勝前夜祭&ニューヒーロー賞

決勝前日の10月28日には、東京都内のホテルで決勝前夜祭が開催された。Jリーグの大東和美チェアマンは冒頭、東日本大震災の影響を受けたこの大会について「あすの決勝を無事に迎えることができたのは、何よりも大会特別協賛社であるヤマザキナビスコ株式会社様、ならびに飯島社長のほかたならぬ支援、協力のおかげ」とあいさつ。同社の飯島茂彰 代表取締役社長は「準優勝チームは優勝チームを、優勝チームは準優勝チームをたたえてほしい。決勝戦を終えた両チームには、ホームタウンに戻って地域のファン・サポーターの方々と、さらなるサッカーの振興に努めていただければ、スポンサーとしてこれ以上の喜びはない」と述べた。

1回戦から準決勝まで、最も活躍が顕著だった23歳以下(大会開幕時)の選手を対象となるニューヒーロー賞の発表も、前夜祭の恒例。今大会の受賞者は浦和レッズのFW原口元氣。飯島社長

より表彰された原口は「(日本代表への招集で)僕は準決勝、準々決勝には出ていない。チームが勝ってくれなかったら、この賞はなかったと思うのでチームメートに感謝したい」と話した。

また、ヤマザキナビスコカップ通算100試合出場を達成した山田暢久(浦和)には、記念パネルが贈られた。



ニューヒーロー賞の原口。左はヤマザキナビスコ株式会社の飯島社長



飯島社長、大東チェアマンを中心に、ステージ上に勢ぞろいした両チームの監督、選手